



巻頭  
特集

# 流山と新選組

暮らしている町の歴史、知っていますか？

流山市には、新選組に関連する団体が3つあります。イベントでそろいの装束を身につけた人々を見たことがあるかもしれませんね。小説やマンガ、ゲームなどの題材に使われることが多い新選組は、世代を問わずファンが多い存在です。

流山市と新選組との関係をひも解いていきましょう。



▲「新選組流山隊」殺陣(たて)の様子。

京都・鳥羽伏見の戦いで旧幕府軍は破れ、新選組も江戸へと戻ります。徳川家の命令を受けた近藤は、大久保剛と改名し、治安維持を目的とした「鎮撫隊」を率いて甲州へ赴くも、新政府軍に攻撃されて敗走しました。その後、大和守となった近藤は流山へと転陣しました。当時、徳川家と新政府軍は和睦の成立に向けて動いていたため、成立前に争いを起こすと和睦の妨げになってしまいます。近藤たちが流山に移動したのは、進軍してきた新政府軍との交戦を避けるためであったそうです。

しかし、情報を得た新政府軍は流山を急襲し、近藤・土方ら数名がいた本陣「鴻



## 流山は新選組 近藤・土方離別の地

新選組は、幕末期に活躍した徳川幕府配下の集団です。時代が大きく変わる中で約5年間、京都を中心に、現代でいう警察組織の一部として活動を行いました。当時の京都では、幕政に異論を唱え「天誅」と称して暗殺行為を繰り返す過激派が潜んでおり、新選組は町を見廻り、火種を消す役割を担っていました。

新選組の近藤勇と土方歳三という名前は、歴史が苦手だという方でも耳にしたことがあるでしょう。ともに国を守るために行動し続けてきた隊長・近藤と副長・土方ですが、近藤が新政府軍に出頭したのを最後に永遠の別れとなりました。その地が、ここ流山なのです。

新選組の近藤勇と土方歳三という名前は、歴史が苦手だという方でも耳にしたことがあるでしょう。ともに国を守るために行動し続けてきた隊長・近藤と副長・土方ですが、近藤が新政府軍に出頭したのを最後に永遠の別れとなりました。その地が、ここ流山なのです。

京都・鳥羽伏見の戦いで旧幕府軍は破れ、新選組も江戸へと戻ります。徳川家の命令を受けた近藤は、大久保剛と改名し、治安維持を目的とした「鎮撫隊」を率いて甲州へ赴くも、新政府軍に攻撃されて敗走しました。その後、大和守となった近藤は流山へと転陣しました。当時、徳川家と新政府軍は和睦の成立に向けて動いていたため、成立前に争いを起こすと和睦の妨げになってしまいます。近藤たちが流山に移動したのは、進軍してきた新政府軍との交戦を避けるためであったそうです。

池」(永岡三郎兵衛)の醸造所は包囲されました。

近藤は大久保大和と名乗り、流山滞在の事情を説明するため出頭しましたが、連行された板橋宿で、元新選組の近藤勇であることが露見し、恨みを持つ者たちにより斬首されました。

その約一年後、土方も箱館(現・函館市)で戦死を遂げました。

徳川家に忠節を尽くし、苦楽を共にしてきた二人の離別の地として、流山は新選組ファンにとっても重要な拠点なのです。





## 現代に続く新選組ブームの礎は 後年に作られた

歴史は勝者が語るものです。そのため、長らく新選組は「賊軍」とされ、日の目を浴びることがない存在でした。その新選組に脚光を浴びせ、今に続くブームの礎を作ったのが、現在流山市に住む「新選組友の会」の代表・大出俊幸さんです。「新人物往来社」の編集者だった大出さんは、偶然手にした「永倉新八」の本をきっかけに、新選組にどっぷり浸かる生活を送る



▲「新選組友の会」代表・大出俊幸さん。

ことになったそうです。その後、編集者として世に送り出した新選組関連本は156冊。多くの新選組研究者・作家を輩出し、新選組ファンならば知らない人はいない存在です。

ファン同士の交流の場として昭和51年（1976）に発足したのが「新選組友の会」です。昭和54年（1979）に始めた「総司忌」と翌年からの「歳三忌」は、40年以上続く沖田総司・土方歳三の慰霊行事です。特に「総司忌」は、年一回のこの日しか墓前に詣でられないので、毎年数百人が列をなしているそうです。その後、平成16年（2004）1月にNHK大河ドラマ「新選組！」が放映開始となり、これが後押しとなって、ようやく近藤勇の慰霊行事「勇忌」が、流山市で創設されたそうです。

こうした行事の主催・共催のほか、年に3〜4回の会報の発行が、「友の会」の主な活動内容です。



## 流山を新選組で盛り立てたい

流山で新選組を盛り立てるために平成15年（2003）に設立された団体が、「新選組流山隊」です。きっかけは、隊長・

松下英治さんが流山市観光協会に入ったこと。平成13年（2002）に、流山市内のお薦め観光スポットを市民アンケート



▲記念講演の様子（平成29年）



▲流山商工会館でおこなわれた「近藤勇生誕180年記念行事」の様子（平成26年）



▲市立博物館での記念展「新選組と書籍」の様子（平成27年）



▲近藤勇の慰霊行事「勇忌」の法要の様子（平成28年）



▲「新選組流山隊」隊長・松下美治さん。

で選定した際、ベストテンに「新選組流山本陣跡(近藤勇陣屋跡)」がランクイン。新選組と流山の関係を発信しているところと考えたそうです。現在こそ幕末史研究家として豊富な知識を持っている松下さんですが、当時、幕末史の知識はほとんどなく、興味もなかったのだそうです。しかし、この活動をきっかけにして史料を読み解き、流山での新選組の真実を解明した結果、『新選組流山顛末記』を出版。これは、新人物往来社の社長として勇退された大出さんの編集による最後の新選組書籍となりました。

新選組流山隊は、関東を中心に約50名が在籍。年齢は10〜60代まで幅広く、親子で在籍している方もいるのだそうです。

主な活動内容は、毎年四月第二日曜日を中心にした「流山新選組まつり」の主催や関連行事への参加、各種イベントでの殺陣の演武、関係者・ファンとの交流のほか、全国の史跡踏査や史料調査など本格的な研究もされています。なかでも、江戸後期の詳細年表や東京23区の史跡地図など、他に

類を見ない資料を作成されています。黒地に赤の隊服を着用し、親しみやすい活動で難しい歴史をわかりやすく、流山のみでなく都内の史跡案内や講演など全国に向けて発信をされています。

「流山隊」の発足と時を同じくして、新選組でムーブメントを起そうと考えたのが、のちに「流山歴史文化研究会」になる渡辺義正さんです。平成16年(2004)の大河ドラマで新選組が取り扱われると耳にした渡辺さんたちは、前出2団体とともに、流山市をはじめとする全市プロジェクト「新選組流山隊実行委員会」を組織し、新選組に関するイベントや講演会を実施。大河ドラマのプロデューサーや役者たちを招くこともあったのだとか。そうした活動が功を奏し、関連地域で流山市だけが、大河ドラマの副題に「流山」と使われたのだそうです。

大河ドラマ放映後、実行委員会は解散し、平成17年(2005)に「流山歴史文化研究会」を設立。新選組だけでなく、同じく流山にゆかりがある小林一茶、利根運河についての活動も行われています。



▲「流山歴史文化研究会」会長・渡辺義正さん。



▲社のアトリエ黎明での記念展解説会の様子(平成28年)

「新選組友の会」「新選組流山隊」「流山歴史文化研究会」の3団体が主催して毎年四月に行っている「流山新選組まつり」。今年は戊辰戦争150年、新選組流山隊の結成から15年という節目の年になります。記念行事や記念展、記念講演などが予定されています。歴史がぐっと身近なものに感じられるきっかけになると思います。ぜひ、足を運んでみませんか？

誠  
今年は戊辰戦争150年の節目  
「第15回流山新選組まつり」

戊辰戦争150年・新選組流山隊結成15年

## 第15回 流山新選組まつり

**記念行事**

「新選組フォーラム」勇忌他

- 日時:平成30年4月8日(日)
- 時間:10:00-17:00
- 会場:流山商工会館、長流寺、他

**記念展1**

「新選組と書籍～新選組結成の真相と現代史」

- 日時:平成30年4月6日(金)～17日(火)
- 時間:9:00-17:00(月曜休館)
- 会場:流山市立博物館

**記念展2**

「新選組と流山～近藤勇と土方歳三 離別までの90日」

- 日時:平成30年4月6日(金)～15日(日)
- 時間:9:00-17:00(月曜休館)
- 会場:社のアトリエ黎明

**記念講演**

14日「新選組結成の真相」15日「新選組流山事件の真相」

- 日時:平成30年4月14日(土)・15日(日)
- 時間:13:00-17:00(12:30受付)
- 会場:社のアトリエ黎明

詳しくは公式サイト▼

お問い合わせ [makoto@shinsengumi.jp](mailto:makoto@shinsengumi.jp) ☎090-3041-7051 <http://shinsengumi.jp>をご覧ください!

※参加費が必要な場合がございます。詳しくはお問い合わせください。